

第3学年 算数科学習指導案

1 単元名 「かけ算の筆算を考えよう（かけ算の筆算2）」

2 単元目標

- 2, 3位数×2位数の筆算の仕方について, 2, 3位数×1位数の計算を基にできることよ
さに気づき, 学習に生かそうとする。 (関心・意欲・態度)
- 2, 3位数×2位数の筆算について, 数の構成や既習の乗法計算を基に考え, 表現したりまと
めたりすることができる。 (数学的な考え方)
- 2, 3位数×3位数の乗法の筆算による計算が確実にできる。簡単な2位数と1位数の乗法を
暗算で計算することができる。 (技能)
- 2, 3位数×2位数の乗法の筆算の仕方について理解する。 (知識・理解)

3 指導観

- 本学年の児童は, 乗法の筆算形式について, 第11単元「かけ算の筆算(1)」で2, 3位数に
1位数をかける場合を学習している。
見通しの活動では, 既習の掲示物や前時までのノートを手がかりにしながら, 多くの児童が自
分で見通しをもって問題に取り組んでいるが, まだ十分とは言えない。
見直しの活動①では, 友だちの考えと自分の考えと比べながら聞き, 説明の足りないところは
付け加えをしたり, はっきりしないところは質問したりすることに取り組んできた。しかし自分
の考えを説明することは十分とは言えない。
見直しの活動②では, 学習問題で交流したことを生かして振り返り問題に取り組み, 多くの児
童が正解することができている。「ふり返りカード」には, 本時のまとめにつながる内容を書け
るようになってきた。
- 本単元は, 筆算形式による2位数に2位数をかける乗法計算の仕方について理解し, それら
を用いることができるようにすることを主なねらいとしている。
具体的には, ①1, 2位数×何十の計算方法を知り用いること, ②2, 3位数と2位数の乗法
計算と筆算形式の方法を知り用いること, ③計算のきまりや法則を用いた乗法計算の工夫を知り
用いること, ④2, 3位数×1位数の暗算の方法を知り用いることである。
これらは, 2学期で学習した2, 3位数×1位数の考え方をもとにして, 1, 2位数×何十の
計算の仕方や2, 3位数と2位数の乗法計算の仕方などを見通すことができると考える。またア
レイ図などを用いることで計算の仕方について道筋立てて説明したり, それぞれの方法を交流し
たりすることで, 自分の考えや方法を見直すことができる。さらに, 学習した数理を適応するこ
とでよさを確かめ, 学習してきたことを見直すことができると考える。よって基礎・基本を身に
付ける上から価値ある単元といえる。
- 本単元において「見通し」と「見直し」の活動における支援の工夫を通して, 算数科における
基礎・基本を身に付けることができるように以下の手だてを考えた。

【つかむ段階における「見通しの活動」の工夫】

- ・ 既習の内容(かけ算の交換法則・結合法則・分配法則など)やキーワード(さくらんぼ計算
など)を強調した物を, 教室に掲示する。

【ふかめる段階における「見直し活動①」の工夫】

- ・ 友達の解いた方法についてみんなで考え, その考え方を共有できるようにするために, 他
者説明による全体交流を取り入れる。

【ふりかえる段階における「見直し活動②」の工夫】

- ・ 交流を通して得たよさを確かめることができる振り返り問題を設定する。
- ・ 自他の考えのよさに着目して見直しができる「ふり返りカード」を準備する。

4 指導計画 (全 12 時間)

配時	目標	学習活動	教師の働きかけ
1 (二組本時)	○ 1 位数×何十の計算の仕方について理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 場面をとらえ、立式について考える。 5×30 の計算の仕方を考える。 1 位数×何十の計算をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 挿絵やアレイ図を提示して、場面を把握させる。 かけ算の交換法則を想起させる。
2	○ 2 位数×何十の計算の仕方を理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 12×30 の計算の仕方を考える。 2 位数×何十の計算をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 何十は、何×10 であることを確認させる。
3 (三組本時)	○ 2 位数×2 位数(部分積がみな2桁で繰り上がりなし、繰り上がりあり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 場面をとらえ、立式について考える。 12×23 の計算の仕方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 線分図をつかい、視覚的に捉えさせる。 かけ算のきまりを使うことを理解させる。
4 (一組本時)		<ul style="list-style-type: none"> 筆算の仕方をまとめる。 適用問題に取り組む。 	
5	○ 学習内容を適用して問題を解決する。	<ul style="list-style-type: none"> 「力をつける問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 理解を深めるために、いろいろな問題に取り組みさせる。
6	○ 2 位数×2 位数(部分積が2, 3桁で繰り上がりなし、あり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 58×46 の筆算の仕方を考える。 36×47, 23×27, 24×83 などの計算を筆算でする。 	<ul style="list-style-type: none"> くり上がりの処理は「×1 位数」と同じであることを理解させる。 くり上がりのしるしを小さくかかせる。
7	○ 2 位数×2 位数(乗数の末尾に0がある)の簡単な計算の仕方や、1 位数×2 位数の計算は乗法の交換法則を用いても計算できることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 86×30 の簡便な筆算の方法を考える。 3×46 の筆算と 46×3 の筆算を比べてどちらが計算しやすいか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 乗数の末尾の0の計算は、不必要であると気付かせる。 かけ算の交換法則を想起させる。
8	○ 3 位数×2 位数の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 587×34 の筆算の仕方を、既習の筆算をもとに考える。 桁数が増えても、既習の筆算と同じように計算できることをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 線分図をつかい、視覚的に捉えさせる。 かけ算のきまりを使うことを理解させる。
9		<ul style="list-style-type: none"> 703×25 など空位のある場合の筆算の仕方を考える。 乗法の筆算を練習する。 	
10	○ 簡単な場合の2 位数×1 位数の暗算の仕方を理解し、その暗算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 25×3, 3×25 の暗算の仕方を考える。 250×3, 25×30 の暗算の仕方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 2 位数をどのようにわけて考えたらいいか考えさせる。
11 12	○ 学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	<ul style="list-style-type: none"> 「しあげの問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 理解を深めるために、いろいろな問題に取り組みさせる。

5 本時 (1/12) 3年〇組教室にて 指導者 (T1)
(T2)

6 本時の目標

○ 1位数×何十の計算の仕方について考えることができる。 (数学的な考え方)

7 本時指導の考え方

本時のねらいは、1位数に何十をかける乗法の仕方を考え、理解することである。この計算は、2位数をかける計算のもとになるものである。

子どもたちはこれまでに、2, 3位数に1位数をかける場合の計算の仕方を学んでいる。また、乗数が1位数の場合の乗法における結合法則や交換法則についても学んでいる。

そこで、本時の目標の達成を図り、算数科における基礎・基本を身に付けることができるために、見通し・見直しの活動において以下の手だてを考えた。

【つかむ段階における「見通しの活動」の工夫】

① 既習内容(乗法の交換法則・結合法則・かけ算の決まり)を教室に掲示したり、問題文のアレイ図を黒板に提示したりして、見通しを立てる際に活用させる。

【ふかめる段階における「見直しの活動①」の工夫】

② 全体交流では、既習の方法で解いた考え方を書いた児童ではなく他の児童に説明させ、さらに他の児童が付け加えや質問をしていくことで、それぞれの考えを共有化させる。(他者説明)

【ふりかえる段階における「見直しの活動②」の工夫】

③ 数値を変えただけの振り返り問題に取り組みせ、本時学習のよさ(5×30の答えは5×3の答えの右に0を1つ付けた数になる。)を確かめることができるようにする。

④ 本時学習のよさ(5×30の答えは5×3の答えの右に0を1つ付けた数になる。)を振り返るために「ふり回りカード」に学習問題と振り返り問題を解いて思ったことを記述させ、その発表をもとに今日の学習をまとめる。

8 準備

教師・・・既習の掲示物(乗法の結合法則・交換法則・かけ算の決まり), さし絵, アレイ図(教師用・児童用), 線分図, 画用紙, 「ふり回りカード」, ヒントカード

児童・・・なし

9 本時の展開

段階	学習活動と内容	教師の働きかけ(太字は研究に関わる働きかけ)
つかむ	1 本時のめあてをつかむ。 (1) 問題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 学習問題 (5人)ずつすわれる長いすが(30こ)あります。 全部で何人すわれますか。 </div>	○ 問題の意味をつかませるために、長いすのアレイ図を提示する。
⑩	(2) 立式する 5×30	○ 立式ができない児童にはさし絵を使って長いす1個にすわれる人数が同じで、そのいくつ分だからかけ算が使えることを助言する。(T2)
	(3) 本時のめあてを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> めあて かける数が何十の計算のしかたを考えよう。(5×30) </div>	○ 既習内容を掲示することで、既習と本時の違いに気付くことができるようにする。

	<p>2 解決の見通しをもつ。 【見通しの活動】</p> <p>ア 横1列のいくつ分 イ 縦1列のいくつ分 ウ かけ算のきまりを使う</p>	<p>○ 見通しがもてない児童にはヒントカードを渡し、「図の縦1列には何人座れるか、横列には何人座れるか」等助言する。 (T2)</p>
<p>つくる ⑩</p>	<p>3 見通しにそって自分の考えをつくる。</p> <p>ア 横1列分の数を求めてから、3列分の数を求める。 $5 \times 10 = 50, 50 \times 3 = 150$</p> <p>イ 縦1列分の数を求めてから、10列分の数を求める。 $5 \times 3 = 15, 15 \times 10 = 150$</p> <p>ウ 交換法則を使う。 $5 \times 30 = 30 \times 5 = 150$</p>	<p>○ 自分の見通しにそって考えることができているかを観察し、活動が停滞している児童にはアレイ図を書いたヒントカードを渡し個別に支援する。(T2)</p> <p>○ 自分の考え方が書けた児童には、言葉で説明を書いたり別の方法にも取り組んだりするよう助言する。</p>
<p>ふかめる ⑮</p>	<p>4 考えを交流する。 【見直しの活動①】</p> <p>(1) 自分の考えをはっきりさせる。 (2) 友だちの考えを聞いて気づいたことを出し合う。 (3) 1つの式に表し、共通点を話し合う。</p> <p>ア $(5 \times 10) \times 3 = 5 \times 10 \times 3 = 150$ イ $(5 \times 3) \times 10 = 5 \times 3 \times 10 = 150$ ウ $5 \times 30 = 30 \times 5 = (3 \times 5) \times 10 = 150$</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>発表例</p> <p>どれも 5×3 の答えを10倍しています。</p> </div>	<p>○ 自分がどの方法で解いたのか、挙手させることで、自分の考えをはっきりさせる。</p> <p>○ 考えを書いた児童ではなく、他の児童に説明させ、さらに他の児童に付け加えや質問をさせる(他者説明)ことで、それぞれの考え方をしっかり理解できるようにする。</p> <p>○ どの考えも認めた上で、どの考えも 5×3 の答えを10倍していることを確認する。</p>
<p>ふりかえる ⑩</p>	<p>5 本時学習をまとめる。 【見直しの活動②】</p> <p>(1) 振り返り問題をやる。 7×80 7×8 の答えの10倍だから、56に0を1こつけて答えは560になります。</p> <p>(2) 「振り返りカード」を書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>記述例</p> <p>わたしはいろいろな考え方があることが分かりました。しかし、かける数が何十の答えは、九九の答えに0を1こつけるとかんたんにできることがわかりました。</p> </div> <p>(3) 本時学習をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>まとめ</p> <p>かける数が何十の答えは、九九の部分の先に計算して右に0を1こつけるとよい。</p> </div>	<p>○ 本時で学習した考え方のよさを味わうために、数値だけを変えた類似問題に取り組むようにする。</p> <p>○ よりかんたんで速い方法として九九に0をつけるやり方が望ましいことを確認する。</p> <p>○ 「振り返りカード」には、学習問題や振り返り問題を解いてみて分かったことや思ったことを記述させる。</p>

6 本時の目標

- 2位数×2位数の計算の仕方を考えることができる。 (数学的な考え方)

7 本時指導の考え

本時のねらいは、2位数×2位数の計算の仕方について考える活動を通して、計算ができるようにすることである。

子どもたちは前時まで、2位数×何十の計算の仕方を学習してきた。そして、さくらんぼ計算や数図などを用い、それぞれの方法を交流することで、かける数を分けて考えることに気づくことができている。

そこで、本時の目標の達成を図り、算数科における基礎・基本を身に付けることができるために、見直し・見直し活動において以下の手だてを考えた。

【つかむ段階における「見通しの活動」の工夫】

- ① 既習内容についてキーワード(数図・さくらんぼ計算)をはっきりとさせ、教室に掲示しておくようにし、見直しをたてる際にふり返るようにする。

【ふかめる段階における「見直し活動①」の工夫】

- ② 全体交流では「23を10と10と3に分ける」方法と「23を20と3に分ける」方法、それぞれの考えを交流用紙に書いた児童ではなく他の児童に説明させ、さらに他の児童が付け加えや質問をしていくことで、それぞれの考えの内容を深めさせる。(他者説明)

【ふりかえる段階における「見直し活動②」の工夫】

- ③ 数値を変えただけの学習問題に取り組みせ、本時のよさ(かける数を何十と何にわけて計算する)を確かめることができるようにする。
- ④ 本時の考えのよさ(かける数を何10と何にわけて計算する)があったことをふり返るために「ふり返りカード」に学習問題と振り返り問題を解いて思ったことを記述させ、その発表をもとに今日の学習をまとめる。

8 準備

教師・・・既習の掲示物(かけ算の法則・何十かける)、ヒントカード、画用紙
 児童・・・なし

9 本時の展開

段階	学習活動と内容	教師の働きかけ(太字は研究に関わる働きかけ)
つかむ ⑩	1 本時のめあてをつかむ。 (1) 問題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 学習問題 1まい12円の工作用紙を23まい買いました。代金はいくらですか。 </div> 式 12×23 (2) 本時のめあてを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> めあて 2けた×2けたの計算の仕方を考えよう。 </div>	○ 前時の内容を提示しておき本時との違いに気付かせる。 ○ 黒板で数直線を児童と一緒に完成をさせることにより、答えの見積もりを立てる。
	2 解決への見通しをもつ 【見通し活動】 ○ かける数を分ける A 23を20と3に分ける B 23を10と10と3に分ける	○ 見通しがもてない児童にはヒントカードを渡す。

<p>つくる</p> <p>⑩</p>	<p>3 見通しにそって自分の考えをつくる。</p> <p>A 23を20と3に分ける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> $12 \times 23 =$ $\begin{array}{r} \wedge \\ 20 \quad 3 \end{array}$ $12 \times 20 = 240$ $12 \times 3 = 36$ $240 + 36 = 276 \quad \text{答え } 276 \text{ 円}$ </div> <p>B 23を10と10と3に分ける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> $\begin{array}{cccccccccccc} 12 & 12 & 12 & 12 & 12 & 12 & 12 & 12 & 12 & 12 & 12 & 12 \\ \hline 12 & 12 & 12 & 12 & 12 & 12 & 12 & 12 & 12 & 12 & 12 & 12 \\ 12 & 12 & 12 & & & & & & & & & \end{array}$ $12 \times 10 = 120 \quad 12 \times 10 = 120$ $12 \times 3 = 36 \quad 120 + 120 + 36 = 276$ </div>	<p>○ 自分の見通しにそって、考えることができているか観察し、活動が停滞している児童には数図を書いたヒントカードなどを使い個別に支援をする。</p> <p>○ 終わった児童には、言葉で説明を書いたり、別の方法にも取り組んだりするよう指導する。</p>
<p>ふかめる</p> <p>⑮</p>	<p>4 考えを交流する。 【見直し活動①】</p> <p>(1) 自分の考えをはっきりさせる。</p> <p>A 23を20と3に分ける。</p> <p>B 23を10と10と3に分ける。</p> <p>(2) 友だちの方法をみんなで説明する。</p> <p>(3) 共通点や考えのよさについて発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>発表例</p> <ul style="list-style-type: none"> • どちらの考えもわる数をわけて考え最後にたし算をしている。 • 23は20と3に分けた方が計算する回数が少ない。 </div>	<p>○ 自分がどの方法で解いたのか挙手させ、自分の立場をはっきりさせる。</p> <p>○ 考えを書いた児童ではなく、他の児童に説明するようにし、さらに他の児童に付け加えや質問をする（他者説明）ことで、それぞれの考え方をしっかり理解できるようにする。</p> <p>○ 2つの考えの共通点を理解させる。</p> <p>○ 23を20と3に分けた方が速く解けることを確認する。</p>
<p>ふりかえる</p> <p>⑩</p>	<p>5 本時学習をまとめる。 【見直し活動②】</p> <p>(1) 振り返り問題をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> $32 \times 24 =$ $\begin{array}{r} \wedge \\ 20 \quad 4 \end{array}$ $32 \times 20 = 640 \quad 32 \times 4 = 128$ $640 + 128 = 768$ </div> <p>(2) 「振り返りカード」を書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>記述例</p> <p>わたしは、23を10と10と3に分けていましたが、20と3に分けた方が速く解けることが分かりました。2つの考えもかける数をわけています。</p> </div> <p>(3) 本時学習をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>まとめ</p> <p>2けたのかけ算は、かける数を何十と何にわけると計算できる。</p> </div>	<p>○ 本時で学習した考えのよさを味わうために、数値だけを変えた類似問題に取り組ませる。</p> <p>○ 「振り返りカード」には、学習問題と振り返り問題を解いてみて、分かったことや思ったことを記述させる。</p>

6 本時の目標

- 2位数×2位数の筆算の手順を理解し、その手順を説明したり計算をしたりすることができる。
(数学的な考え方)

7 本時指導の考え方

本時のねらいは、2位数×2位数の筆算形式の手順を考えることで、かけ算の筆算の概念を理解し計算できるようになることである。

児童は前時までには、2位数×2位数の計算の仕方を学習してきた。そして、図や数直線などを用い、かける数を分ける考え方を交流することで、2位数×2位数の計算は2位数×何十と1位数の計算を行い、答えがその2つの計算の和になっていることを理解してきた。

そこで、本時の目標の達成を図り、算数科における基礎・基本を身に付けることができるために、見通し・見直しの活動において以下の手だてを考えた。

【つかむ段階における「見通しの活動」の工夫】

- ① 既習内容(かける数を分けて考える方法)についてキーワード(2位数×2位数の計算は2位数×何十と1位数の計算を行い、答えが2つの計算の和になっていること)をはっきりさせ、教室に掲示しておくようにし、見通しを立てる際に振り返るようにする。

【つかむ段階における「見直しの活動①」の工夫】

- ② 全体交流では、十の位の筆算と答えの部分进行交流画用紙に書き、書いた児童ではなく他の児童に説明させ、さらに他の児童が付け加えや説明、質問などをしていきながら筆算の手順や表記の仕方の理由を考え、それぞれの内容を深めることができるようにする。(他者説明)

【ふりかえる段階における「見直し活動②」の工夫】

- ③ 数値を変えただけの振り返り問題の取り組み、本時学習のねらいや(かけ算の筆算は、かける数を分けて計算している。)筆算の表記の仕方を確かめることができるようにする。
- ④ 本時では、前時の学習(2位数×2位数の計算は2位数×何十と1位数の計算を行い、答えが2つの計算の和になっていること)を生かせることを振り返るために、「ふり返りカード」に学習問題と振り返り問題を解いて思ったことを書き、その発表をもとに今日の学習をまとめる。

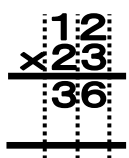
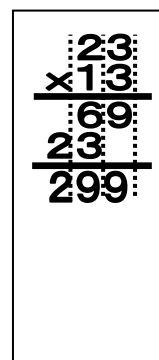
8 準備

教師・・・既習の掲示物、画用紙、学習プリント、「ふり返りカード」

児童・・・なし

9 本時の展開

段階	学習活動と内容	教師の働きかけ (太字は研究に関わる働きかけ)
つかむ⑩	<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <p>(1) 問題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>学習問題</p> <p>12×23の筆算の仕方をせつめいできるようにしよう。</p> </div> <p>(2) 本時のめあてを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>めあて</p> <p>12×23の筆算の仕方を考えよう。</p> </div>	<p>○ 前時の内容を掲示物で振り返り、本時とのちがいを意識させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>筆算の仕方をせつめいしよう。</p> </div>
	<p>2 解決の見通しをもつ。 【見通しの活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ かける数を分けた計算を想起する。 ・ 12×20=240 と 12×3=36 を使う。 ・ 12×23→12×20=240 →12×3=36 合わせて 276 	<p>○ 既習の掲示物を使い、見通しがもてるようにする。</p> <p>○ ①②を一斉で行い見通しの共通理解をする。(次ページ参照)</p>

<p>つくる</p> <p>⑩</p>	<p>3 見通しにそって自分の考えをつくる。</p> <p>③ 12×2 をする。 二二が四，二一が二 十の位にかく，0 はかかない。</p> <p>④ 36 と 24 (240) を合わせて 276。</p>	 <p>① 位を合わせて筆算を立てる。 ② 12×3 をする。 三二が六，三一が三</p> <p>③ <input type="text"/></p> <p>④ <input type="text"/></p> <p>○ 既習のかけ算の筆算の仕方をヒントカードにする。</p>
<p>ふかめる</p> <p>⑮</p>	<p>4 考えを交流する。 【見直しの活動①】</p> <p>(1) 自分の考えを説明する。 (2) 筆算の仕方できが付いたことを発表する。</p> <p>発表例 ③は，12×20 のことで，二二が四，二一が二で，十の位から書きます。0 はかきません。 ④は，一の位と十の位の計算を足したもので 12×23 の答えです。</p> <p>発表例 前の学習では，十の位の計算が最初だったけど，筆算では，一の位から計算します。</p>	<p>○ 最初に，筆算の数に該当する掲示物のキーワードを貼り，そのあとに，そのわけについて考えさせるようにする。</p> <p>○ 考えを書いた児童ではなく，他の児童が説明するようにし，さらに他の児童に付け加えや質問をさせる（他者説明）ことで，それぞれの考え方をしっかり理解できるようにする。</p>
<p>ふりかえる</p> <p>⑩</p>	<p>5 本時学習をまとめる。 【見直しの活動②】</p> <p>(1) 振り返り問題をやる。</p>  <p>① 位を合わせて筆算を立てる。 ② 23×3 をする。 三三が九，三二が六</p> <p>③ 23×1 をする。 一三が三，一二が二 十の位にかく。</p> <p>④ 69 と 23 (230) を合わせて 299。</p> <p>(2) 「振り返りカード」をかく。</p> <p>記述例 わたしは，かけ算の筆算は，かける数を分けて計算しているのと同じだとわかりました。Aさんが，0 は，あるけどかかないといったので 24 は 240 のことだとわかりました。</p> <p>(3) 本時学習をまとめる。</p> <p>まとめ 一の位から計算する。 十の位の計算は，十の位からかく。(0 はかかない) かけ算の筆算は，かける数を分けて計算しているのと同じ。</p>	<p>○ 本時で学習した考え方のよさを味わうために，数値だけを変えた類似問題に取り組むようにする。</p> <p>○ 定着を図るために，1 の位からから計算することに気付かせるようにする。</p> <p>○ 「振り返りカード」には，学習問題や振り返り問題を解いてみて，分かったことや思ったことを記述させる。</p>